

日本の色④ 松葉色(まつばいろ):松の葉のくすんだ色を表す。いつも葉をつけ、何年も生き続ける松は長寿と不変の象徴だ。



Koji Okisawa

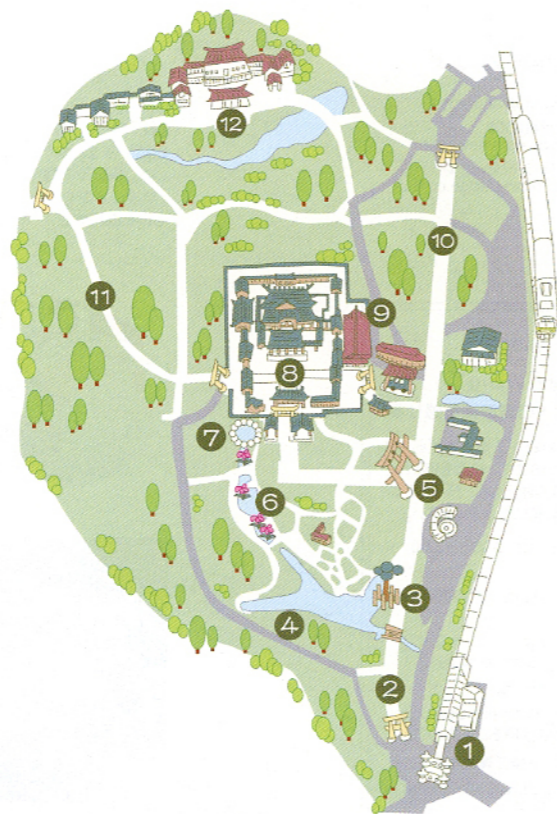
沖沢幸二(おきさわ・こうじ)氏  
1946年、青森県出身。73年、林野庁に入庁。青森県、東京都、秋田県などでの勤務を経て、2001年に30年来の夢だった明治神宮の森を管理する総合管理部主幹技師に就任。毎日7人のスタッフとともに神宮の森を守っている。

- ① 駅: JR原宿駅、千代田線明治神宮前駅すぐ。ここから、参拝時に通ることから名がついた「表参道」を向くと元且の日の出が見える。
- ② 南参道: ここを森に囲まれて歩く頃には表の喧嘩は遠くなっている。木々が茂る空の下、冷気と鳥の声に包まれて非日常体験が始まる。
- ③ 代々木: ここに代々、もみの大木が育ったため、この一帯に「代々木」という地名がついた。
- ④ 御苑: 江戸初期以来、大名の加藤家、井伊家の下屋敷の庭園。後に皇室の御料地に。武蔵野の雑木林の面影がある。下の写真、右端。
- ⑤ 日本一の大鳥居: 檜造りの明神鳥居として、日本一の大きさを誇る。右ページの写真。高さ12m、柱間9.1m、柱の径12m、竝木(横に渡してある一番長い柱)の長さは17m。ここから本殿に続く参道の曲がり角は、縁起を担ぐため、直角ではなく末広がりの「88度」になっている。

- ⑥ 菖蒲田: 明治天皇の指示で昭憲皇太后のために植えられた。周囲の木々とのコントラストも美しい。下の写真、右から2枚目。
- ⑦ 清正井: 加藤清正が掘ったと伝えられる都内有数の名湧水。コンコンと湧き出る水を見ると心が安らぐ。
- ⑧ 本殿: 1958年に再建された。荘厳な雰囲気が漂う。
- ⑨ 神楽殿: 各種の祈願が随時行われている。
- ⑩ 北参道: JR代々木駅方向に伸びた参道。ここに限らず、参道はすべて玉砂利だ。一歩踏み出すごとに「ジャリッ」と音がする。この音を聞きながら石を踏むことで精神を清め、心を静め、お祈りをする本殿に近づいていく。これが日本的な感じ方だ。ゆっくりと歩いてほしい。
- ⑪ 西参道: 小田急線参宮橋駅方向に伸びた参道。
- ⑫ 宝物殿: 1921年に創建された。御祭神ゆかりの品々を展示している。

明治神宮の全体図

明治天皇を祭りたいという85年前の人々の思いが出発点となって、国会決議を経て造営されたのが明治神宮だ。全国から奉納された当初365種の木は、自然淘汰の結果、現在247種。この後、数百年かけて、「天然の森」となっていく。



手づくりの森に包まれる神秘



神楽(舞楽): 豊作、豊漁を願い、古くから舞われてきた、神様に捧げる歌や踊り。



流鏝馬: 天下泰平、五穀豊穡を祈って馬を走らせながら矢で木製の方形の3つの的を射るもの。



菖蒲田: 6月中旬から下旬が見頃で150種、1500株の菖蒲が見られる。



御苑: 四季折々の風情が見られる。写真は秋の紅葉。

「ここは創建当時の日本を代表する技師、本多静六により、100年で完成するよう考えられた人工の森です」。

森の番人、沖沢幸二氏は語る。

明治神宮は初詣三が日の参拝者数日本一の記録を1979年から25年更新し続けている。ちなみにその前は、京都府の伏見稲荷大社、神奈川県川崎大師や鶴岡八幡宮などがトップだった。明治神宮の境内は東京・原宿の賑やかな街並みのすぐそばに、あることを忘れてしまいがちな静けさがある。この神秘的な静けさこそ、明治神宮の魅力の一つである。創建は1920年。明治天皇と昭憲皇太后を祭り、本殿を守るため全国から奉納された木を植えて造営したのが、この鎮守の森である。

森が守る都会の神社で初詣  
正月は日本人らしさを感じる時期だ。皆さんはもう初詣には行っただろうか? 年明けに家内安全、健康などの所願成就を神様に願う日本人の宗教観は興味深い。もし初詣がまだならば、明治神宮を訪れてはいかがだろうか。



日本の初詣

明治神宮で森を感じる

連載第九回 初詣者数日本一の神社

真の国際化とは自分の国を知ること。正月という改まった時期に、明治神宮を守る東京ドーム15個分もの広さの森に包まれてみてはいかがか。

渡辺幸裕(案内人) ◆ 文  
Text by Yukihiko Watanabe  
寺尾豊、本間高志 ◆ 写真  
Photographs by Yutaka Terada, Takashi Honma

# 年の初めだからこそ、訪ねたい神社だ

## 初詣で手に入れたい縁起物



守護矢：一般的には「破魔矢」と呼ぶ正月の縁起物だが、明治神宮では「守護矢」と名づけている。七面鳥の羽と檜でできている。



福扇：除災招福、大願成就を祈る。稲穂や俵などめでたい飾りがついている。福扇や守護矢、お守りなどは、1年後の年末に神社に納め、新しいものを準備する。



干支鈴：鈴の音は魔よけの力を持つと言われ、神事に用いられている。干支をかたどった土鈴もその音色により、悪魔を払うという。



絵馬：本来は神社仏閣に祈願、報謝のために馬やその他のものを木板に描いて奉納していた。最近ではその年の幸運を祈り、干支を描くようになったそうだ。

左の写真は明治神宮本殿内にある、絵馬の奉納場所。英文の説明があり、英語、韓国語、中国語など各国の言葉で願い事が書かれた絵馬が所狭しと下げられている。



## さらに深める参考情報…

### 【書籍】

- 「明治神宮の森」の秘密  
(明治神宮社務所編、小学館)
- 「開運! 神社めぐり」  
(辰宮太一監修、ワニブックス)
- 「神社の見方」ポケットサイ  
(外山晴彦・「サイ」編集部編集、小学館)

### 【ウェブサイト】

- 明治神宮  
<http://www.meijijingu.or.jp>
- 明治記念館  
<http://www.meijikinakan.gr.jp>
- 神社と神道  
<http://www.jinja.or.jp/shogatsu>
- CityDO! 初詣特集2005  
<http://www.citydo.com/newyear>
- 会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ  
<http://www.japanknowledge.com>

### 【告知】

#### 日本かぶれの会

都心の森で日本人の自然観を感じる

沖沢幸二さんの説明を聞きながら、明治神宮の森を歩きます。神楽を奉納し、昼食を食べながら沖沢さんと語ります。この機会にお気軽にご参加ください。

日時：3月12日(土) 10:00~13:00

会場：明治神宮

東京都渋谷区代々木神園町1-1

募集人数：10人

参加実費：3500円

(神楽奉納玉串料、食事代などを含む)

締め切り：2月4日(金)

応募方法：<http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato9/>で必要事項をご入力ください。

発表：参加者に直接ご連絡します。

問い合わせ先：[info-nba@nikkeibp.co.jp](mailto:info-nba@nikkeibp.co.jp)

### 「初詣に出かける装い」

参拝にふさわしい厳かな装いにするため、着物、お招きの羽織、袴はすべて無地。足袋も白地を。大きめの房がついた羽織紐を選んだのも、フォーマル感を出すためだ。(渡辺幸裕)



正月らしい華やかなあざき色に「束ねのし」というめでたい柄の着物。1、2月に適した梅柄の黒帯でクラシックに。

(田坂るみさん=読者、衛星通信管理会社勤務) 着物撮影協力/銀座もとじ

### 案内人・文

渡辺幸裕(わたなべゆきひろ)

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

木々に触れ、自分に返る

政府は「伊勢神宮や日光の杉並木のような森に」と考えたが、最終的に本多の主張が通った。「関東ロームの乾燥や都心の煙害に強く、長きにわたり本殿を守るために、自分の力で生きていける常緑広葉樹の森が適している」。

そしてまず生育の早い松が根づき、後に杉や檜、次に樅、椎などの常緑広葉樹が育つように植樹された。85年目の現在、常緑広葉樹中心の森に順調に育っている。

この中を歩くとどこか懐かしく、宮崎アニメの「となりのトトロ」や「もののけ姫」などに現れる「日本の森」を感じる。沖沢氏は

「森は数百年続く。先人から受け継ぎ次世代に渡すため、決して途中でパトン(棒)を落としてはいけな」と思っている」と語っていた。

ビジネスでは「短期間に実績を出す」という厳しきがある。だが、時にはその速度から離れ、長い時を経て完成していくものの偉大さを感じてみてほしい。必ずや明日へのエネルギーを得られるはずだ。

明治神宮へ行くのには参拝や客の案内など様々な目的がある。「日本かぶれ」がお勧めするのは、1人で境内を歩き、自分について思いを馳せることだ。自然の森ではないが身近にある、日本人が日本人に返ることのできる森だ。体験者としての提案である。